

### 廃棄物学会ニュース

No.92 廃棄物学会

The Japan Society of Waste Management Experts

# 平成18年度廃棄物学会総会開催案内

廃棄物学会誌第17巻第1号にて告示のとおり、平成 18年度廃棄物学会総会を下記により開催いたします。 会員各位の積極的なご参加をお願いいたします。

1. 開催日時: 平成 18 年 5 月 23 日(火)

総 会 17:15~18:15 表 彰 式 18:20~18:40 懇 親 会 18:50~20:00

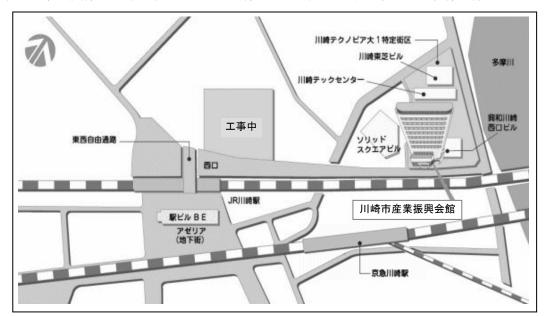
2. 開催場所:川崎市産業振興会館

総会は、学会の事業活動と運営について、会員各位 にご審議いただく最も重要な会議です。

今回は、平成 17 年度事業報告と決算報告、平成 18 年度事業計画(案)と予算(案)のほか、先の選挙結果(次 頁参照)に従って、会則第 13 条の規定にもとづく第 9 期の役員(理事・監事)の選出をお願いいたします。

ご都合でどうしても参加できない正会員の方は、別途送付いたしました総会資料に綴じ込んである委任状の提出をお願いいたします(5月22日必着)。総会の成立要件として、会則第25条の規定により、正会員の4分の1の出席が必要とされておりますので、ご協力をお願いいたします。

総会終了後には、平成 17 年度廃棄物学会賞表彰式、 懇親会を開催しますので、併せてご参加をお願いいた します。なお、廃棄物学会誌第 17 巻 2 号の研究討論会 参加案内で、ご案内しておりました日韓交流協定調印 式は、準備の都合により、延期することとなりました。 新しい日程は、決まり次第ご案内いたします。



# 平成18年度 廃棄物学会研究討論会開催案内

開催日時: 平成 18 年 5 月 23 日(火)~24 日(水)

23 日 10:00~16:50

24 日 9:30~16:45

開催場所:川崎市産業振興会館(総会会場と同じ)

参加費:正会員、公益・賛助会員所属の方、

共催、協賛学会会員;3,000円

学生会員、登録団体市民会員;1,000円 非会員;5,000円(当日、入会できます。) 参加申込方法: 当日、会場に備え付けの参加申込書に 必要事項を記入し、該当する参加費を 添えて申込み下さい。

※総会のみの出席は無料です。

※懇親会への参加には別途費用が必要になります。

詳細については、すでにお送りしております学会誌第17巻第2号に掲載の開催要領、または学会ホームページをご覧ください。

選挙管理委員会 

廃棄物学会第9期役員選挙の結果は下記のとおりです。今回の選挙での有権者数は3,039名、投票総数は1,439 票であり、投票率は47.4%でした。ご協力ありがとうございました。

平成 18 年 3 月 24 日 選挙管理委員会

1. 理 事(定数16名) 【有効投票数:1,407票】

	氏 名	所 属	得票数
1	武田 信生	京都大学	1,016
2	酒井 伸一	京都大学	1,002
3	田中 勝	岡山大学	1,000
4	古市 徹	北海道大学	909
5	樋口壯太郎	福岡大学	821
6	貴田 晶子	(独)国立環境研究所	816
7	井手 義弘	川崎重工業(株)	801
8	小林 康彦	(財)日本環境衛生センター	800
9	松藤 康司	福岡大学	797
10	西垣 正秀	(株)タクマ	779

	氏	名	所 属	得票数
11	澤地	實	大阪市	746
12	和田	安彦	関西大学	659
13	有田	耕二	JFEプラント&サービス(株)	653
14	山本	攻	大阪市立環境科学研究所	652
15	押方	利郎	大成建設(株)	628
16	西川	光善	(株)環境技研コンサルタント	498
	鈴木	憲司	名古屋大学	482
	羽賀	育子	EPRとデポジット制度の実	455
			現をめざす全国ネットワーク	
	福本	勤	環境保全工学研究所	407

2. 監 事(定数2名) 【無投票・氏名五十音順】

氏 名	所 属	
伴野 茂	鹿島建設㈱	
藤原 正弘	(財)水道技術研究センター	

※監事については、立候補者数が定数を超えなかったため、廃 棄物学会役員の選任に関する規程第4条により、無投票にな りました。

平成17年度市民と学生のためのセミナー

平成 18 年 2 月 25 日

## 「いっしょにやろう環境教育」開催報告

平成17年度の市民と学生のためのセミナーは、「いっ しょにやろう環境教育」と題し、企画委員会と消費者 市民研究部会の主催、杉並区の後援で、平成18年2月 25日に、あんさんぶる荻窪にて開催した。

中井八千代氏(企画委員)の司会のもと、青山俊介氏 (企画委員長) と佐藤則幸氏(杉並区教育委員会)の あいさつがあった。その後、瀬戸昌之氏(東京農工大 学)から、「何を子どもたちに問いかけることができる か」をテーマに講演をいただいた。続いて、藤村コノ ヱ氏 (NPO 法人環境文明 21) から、環境教育について の話題提供をいただいた。

続いて 3 名の方から事例報告があった。大嶋茂男氏 (企画委員)からは、生ごみ堆肥化の事例調査結果や、 食育によって食べることの大切さを学び、生ごみの発 生抑制につなげる取組みについて話があった。また、 小長谷忠春氏(文京区窪町小学校)からは、子どもた ちと先生がともに校内で紙ごみを 1/3 に減らした経緯 や、子ども自らがどのようにしてリサイクルに関心を 持つようになったかについての話があった。さらに、 染谷有美子氏(国際環境 NGO FoE Japan) から、「学校 における省エネと光熱水費節減分還元プログラム フ ィフティ・フィフティ」と題した配布資料をもとに、 フィフティ・フィフティの仕組みと子どもたちを中心 に校内でどのように省エネを進めたかについての紹介 があった。

最後に、藤村氏がコーディネーターとなり、事例紹介 での話題を切り口としたパネルディスカッションが行 われた。発生抑制と、ごみでフィフティ・フィフティ はできるか、どこがポイントか、課題は何か等につい て、参加者や佐藤氏からも意見をいただき、活発で有 意義な討論を行うことができた。

30 名を超える市民や学生に集まっていただき、セミ ナーは成功裏に終了した。

(企画委員会 臼井直人 記)



セミナーの様子

# 第3回廃棄物法制度に関するセミナー開催報告

平成 18 年 3 月 18 日 (土)、京都大学において廃棄物・リサイクルに関する最近の動向および今後の行方をテーマとした「第 3 回廃棄物法制度に関するセミナー」を開催した。小雨の降るあいにくの天気であったが、学生も含め 103 名の参加者が、熱心に聴講した。

今回で3回目となる本セミナーでは、第1回、2回に引き続き由田秀人氏(環境省)にご講演をいただいた。 講演は「廃棄物問題の歴史」、「廃棄物対策の改革」、「今 後の展望」の3部構成で進められ、聴講者にとって理 解し易い内容であった。

第1部の冒頭テーマ"廃棄物をめぐる15年間の変化"は、由田氏が環境省で廃棄物行政に携わってきた歴史そのものであった。豊島や東北地方での不法投棄問題、ダイオキシン関連法整備や廃棄物処理法の改正の意図などを自身の体験談も含め情熱的に説明いただいた。

第2部ではこれまで制定してきた各種リサイクル法の内容やPCB、アスベスト対策について説明があった。また、バーゼル法についても言及されるなど多岐に渡った内容であった。

第3部ではG8の場で3Rイニシアティブについて日本がリーダシップを発揮する意義や東アジア地域での

循環型社会の構築を一層推進していく取り組みについて説明があった。

講演後の質疑の時間も十分に確保していただき、会場から活発な質疑があった。参加者にとって、非常に有意義で今後の活動に役立てることができるセミナーであったと確信する。 (関西支部 竹田航哉 記)



▲ 講演の様子

■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□ 東海·北陸支部 ■□■□ 市民フォーラム 平成 18 年 3 月 25 日

# 「廃棄物のリサイクルと安全な最終処分」開催報告

東海・北陸支部主催の市民フォーラム・総会が、3月 25日に名古屋都市センターにて開催された。

今回の市民フォーラムでは、最終処分場周辺の環境 汚染が危惧され、新たな処分場の建設が困難になる中 で、安全な最終処分の維持管理はどうあるべきか、ま た不法投棄や埋め戻し材等のリサイクル品の安全性な どが社会問題となっている現実をどう考えるかをテー マとした。各界からの 4 名に話題提供を頂き、講演者 と参加者を交えてパネル討論会を行った。

まず、大家清紀氏(福井資源化工(株))から福井県 産業廃棄物処理センターの稼動現況と福井県における 不法投棄の現状・課題について話題提供があった。続いて、林清比古氏(愛知県環境部)からは、愛知県に おける廃棄物最終処分の現況と、特にフェロシルト問題への取り組みについて詳しい説明があった。午後の 話題提供では、石渡正佳氏(千葉県印旛地域整備センター)から「産廃のアウトローの構造」と題して、集 種廃棄物のリサイクルと不法投棄との二重構造の現 と問題点について、具体的事例を示しながら報告を と問題点について、具体的事例を示しながらない。 を を を り場の維持管理の目的と安全な埋立方法(日常及び 定期管理、モニタリング等)に関する解説があった。 最後のパネル討論会では、藤江幸一氏(豊橋技術科学 大学)がコーディネーターとなり、廃棄物のリサイクルと安全な最終処分のあり方をめぐりフロアからの質問と話題提供者のコメントによる熱心な討論が行われた。いずれも市民にとって地域の安全・安心に係わる関心の高い問題であり、フォーラムには約50名余りが参加し、盛会のうちに終了した。

その後、東海・北陸支部の総会が開催され、新支部 長に鈴木憲司氏(名古屋大学)を選出した。

(東海・北陸支部 伊藤秀章 記)



▲パネル討論会の様子

### 【お知らせ】

#### 関西支部主催 市民と学生のためのセミナー 「めぐる 世界のモノとごみ」

開催日時: 平成18年6月10日(十)13:30-16:45 開催場所:大阪市立大学 文化交流センターホール 参加費:1,000円(C&G10号持参の方は500円。)

員:100名

申込方法:「市民と学生のためのセミナーに参加希望」と明記 の上、住所、氏名、連絡先(TEL、E-Mail アドレス

など)、C&G10号の要・不要を記入し、E-Mail、

FAX、ハガキにて申込先へ送付する。

申込締切:平成18年5月26日(定員になり次第締切)

申 込 先:〒530-0051 大阪市北区太融寺町5-15 梅田イース トビル3 階 (財)廃棄物研究財団 大阪研究所(担

当:木川・宮田)

TEL: 06-6363-3481 FAX: 06-6363-3482

E-mail: o-seminar@jwrf.or.jp

細:http://www.jswme.gr.jp/kansai/

#### 独立行政法人国立環境研究所公開シンポジウム 2006 「アジアの環境と私たち

ーもう無関心ではいられないー」

(1) 京都会場

開催日時: 平成 18年6月4日(日) 12:00-17:00

開催場所:シルクホール (京都市下京区)

員:約700名 (2) 東京会場

開催日時: 平成18年6月18日(日)12:00-17:00

開催場所:メルパルクホール(東京都港区)

員:約1,200名

#### 【共诵事項】

参加費:無料

申込方法:参加希望会場、住所、氏名、年齢、職業、連絡先 (TEL、FAX、E-Mail 等)をHP(下記)にて登録、ま

たは E-Mail、FAX、ハガキにて申込先へ送付する。

申 込 先:〒105-0003 東京都港区西新橋 1-7-2

虎ノ門高木ビル ㈱インターグループ内

国立環境研究所公開シンポジウム 2006 登録事務局

TEL: 03-3597-1129, FAX: 03-3597-1097 E-mail: nies2006@intergroup.co.jp

http://www.nies.go.jp/sympo/2006/index.html

ire op 1// www. irrest. go. jp/ bympo/ 2000/ irraek. iremi				
会 員 状 況	H18.3.31 現在 ( )内は、H17.4.1 以降の増減			
正会員	3, 313 (-120)			
学生会員	314 ( 8)			
外国人会員(DM)	25 ( 3)			
登録団体市民会員	4 ( 1)			
公益会員	109 ( 0)			
賛助会員	171 ( -4)			
計	3, 936 (-112)			

注) 外国人会員(DM) は、廃棄物学会外国人等会員規程第4条に定める会員を示す。

廃棄物学会ニュース No. 92 平成18年5月10日発行 廃棄物学会 〒108-0014 東京都港区芝 5-1-9 豊前屋ビル 5F

Tel. 03-3769-5099 Fax. 03-3769-1492

http://www.jswme.gr.jp 印刷媒体は古紙配合率 100%再生紙を使用しています

#### **JSWME Newsletter No.56 (April)** 発行のお知らせ

英文ニューズレター第56号が発行されました。

※JSWME NEWSLETTER は 41 号より電子配信のみとなっていま す。最新号、バックナンバーは学会HPから入手できます。 (主要目次)

廃棄物技術動向 廃棄物分野の ODA

:東京PCB廃棄物処理施設の完成 :フィリピンへのJICA専門家派遣と

技術協力概要

自治体事業紹介 : 日野市における「マイバッグ運動」に

よるレジ袋削減

The contents of No.56

1 Dear Waste Management Experts

2 Brief note on SWM in Japan:

The PCB Waste Processing Facility of Tokyo **Block Completed** 

3 Japan's ODA on SWM:

Dispatching of Individual Expert for SWM in the Philippines

- Key Technical Cooperation Scheme of Japan -

4 Japanese Municipalities on the Move:

- Efforts to Reduce Plastic Shopping Bags through "My Bag Campaign" in Hino City -5 Contents of Journal of the JSWME, Vol.17, No.2

(March, 2006)

6 Cartoons by High Moon:

There would be wastes generated after affairs."

#### ☆☆事務局だより☆☆

わたくし、廃棄物の研究を始めてからやっと(も う?) 10 年が過ぎました。初めは見知らぬ世界で抵抗 を感じましたが、次第に面白くなり、今では飽きるこ となく続けられています。というのは、廃棄物のこと を考えると興味のすそ野がどんどん広がってゆくから です。わたくしは工学出身ですが、科学技術のみなら ず法律や経済、社会や歴史などの知識を積極的に取り 込んで実践していかないと説明できないことや解決で きないことがたくさんあります。また、循環型社会の 形成のためには、廃棄物問題をより上流側へ、より世 界へ、またより総合的な政策へと広げてゆくことが重 要です。そのための研究交流の場が廃棄物学会であり、 学会の真の活性化とは、これまで他の分野で研究や仕 事や活動をしていた方々を廃棄物の世界へどしどしと 引き込むことだとわたしは思います。そのためには、 今廃棄物を研究している者が他分野に踏み込 んでゆく勇気と、他分野の方々に廃棄物研

究の魅力を伝えることが課題で、この学 会ニュースがその一端を担えればと 思います。廃棄物の研究は、やれ ば必ず役に立つ社会との強い絆が よいところだと感じています。 (山田正人 記)

次号 (学会ニュース No. 93) は 6 月 30 日発行予定です。